

ICT研修会について

～外部講師による研修会～

支援研究部

【はじめに】

令和5年度より3年計画で研究実践『令和なんばのニュースタンダード～ICTをもっと身近に、もっと便利に～』を進めており、今年度2年目の実施となりました。講師の先生は、昨年度に引き続き、NPO法人支援機器普及促進協会の理事長をされている高松崇様をお迎えして研修を行いました。今回は、事前に教職員に研修で学んでみたい内容を募集し、コミュニケーション支援編と各教科や自立活動などの授業活用編の二本立てで研修を実施し、実際にiPadを活用しながら行いました。

【内 容】

●コミュニケーション支援編

コミュニケーション支援に役立つアプリとして、全角ひらがな（漢字変換なし）を入力できる五十音キーボードの「ごじゅーおん」、発声の不明瞭さを音声エンジンが言い直す「Voiceitt」など、その他多くの紹介がありました。既存機器に子どもを合わせるのではなく、子どもを主体に機能を合わせることを前提に、発達段階に応じてコミュニケーション能力や手段を拡大させるように、支援することの大切さを学びました。

●各教科や自立活動での授業活用編

音声アシストの「Siri」やリアルな風景にデコレーションができる「LiteSpace」、映像作品を作る「iMovie」、keynoteを活用した「ライブカメラ」など、即授業に活かせるiPadの機能やアプリについて学び、それらを活用してグループに分かれて動画を作成し、皆で発表を行いました。

【まとめ】

アンケート結果より、「早速授業で活用している」や「今まで専門的な技術が必要だと思っていたことが、自分でもできそうだと知り教材作成の意欲が湧いた」、「自分の知識をアップデートしたり、いろいろな体験をしなければいけないと思った」など、今後の授業に活かしたり、教師自身のICT活用能力を高める意欲につながる意見が多数ありました。グループに分かれての動画作成では、研修で楽しみながら学んだ知識を活用し、皆で共有することができました。

研究テーマにおいて、昨年度は「周知・認知」、今年度は「定着・活用」を図り、来年度は3年目となり、「応用・発展」を目指して取り組んでいきます。ICT活用能力にはまだまだ個人差がありますが、教職員それぞれが学びを深められるような研修会を来年度も実施していきたいと思えます。

